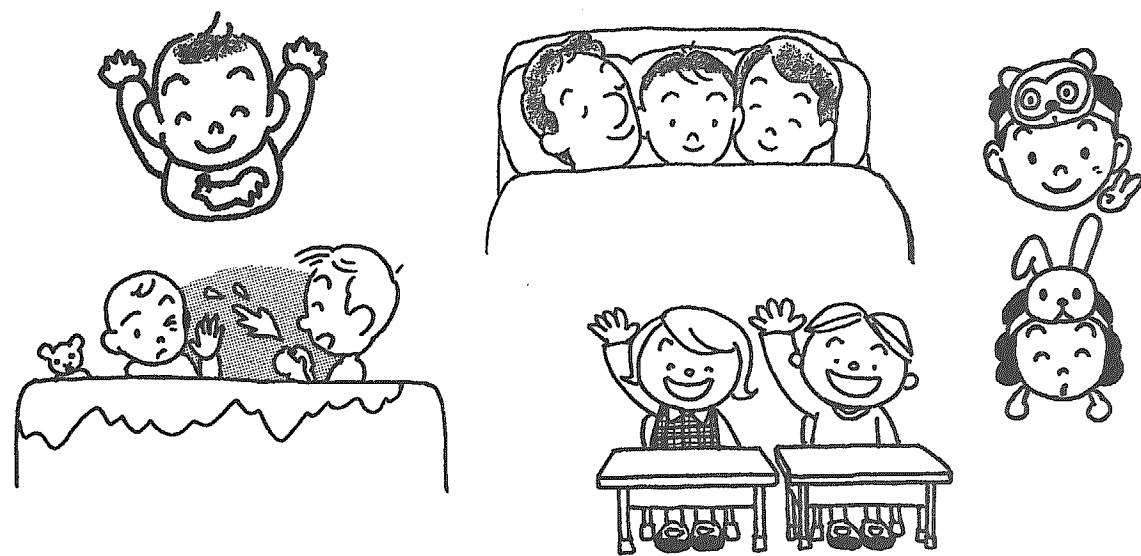


●●●村の少子化について●●●



現在の日本は、全国的に晩婚化の進行などを背景に出生率の低下とともに子供の数が減り続け、少子化が急速に進んでいます。21世紀の半ばには今より約2割減少すると推計され国民の3人に1人が65歳以上になることが見込まれています。

県の年間出生数も昭和48年（第2次ベビーブーム）の3万9千人から平成11年には2万2千人と4割以上減少しました。

村の出生数は平成9年23人、平成10年30人、平成11年29人、平成12年34人です。

働く女性が増え、高学歴化や社会進出、さらにライフスタイル、価値観の多様化により晩婚化（晩産化）が進み少なからず影響していると考えられています。しかし、結婚・出産は個人の価値観や生き方に関わるものであり個人の自由な選択に委ねられるものです。

少子化の影響として、子供が仲間の中でもまれたり我慢することを学ぶ機会が減少し、社会性が育ちにくくなるなど子供の成長への影響や将来、急速に人口の高齢化が進み、若年労働力人口の減少、国内市場の縮小により地域活力の低下等が心配されています。

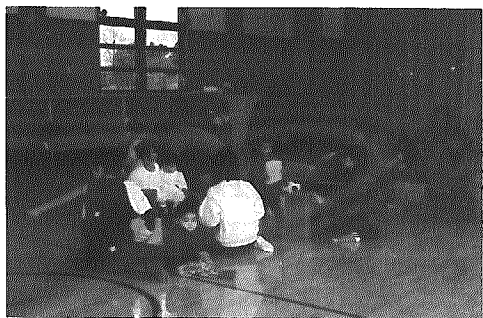
しかし、人口の減少により居住環境の改善や就業機会の増大、教育でのゆとり等プラス面もあると考えられます。

加速度的な少子化の進行は子供たちの成長や将来の社会経済のあり方に大きな影響を与えるものと心配されています。

今後、人口減少と高齢化が同時に進むというこれまでに経験したことのない時代を迎えることが予測され「少子化」は社会全体のテーマであり我々ひとりひとりが考えていかなければならないものがあります。

少子化問題は大きなテーマなので村、家庭、職場、学校、地域のあり方など社会全体が一緒になって取り組んでいかなければなりません。

村では、少しでも子育てに喜びや楽しみを持ち安心して子供を産み育てることができる環境形成に努めています。



子育て教室

現在、核家族や地域社会での人間関係の希薄などで、家庭や地域における育児機能の低下が進みつつあります。

保育園子育て支援相談室で毎週水曜日、午前中「子育て教室」が行われています。

親子での遊びを通じて、同じ位の子供を持つお母さんとの仲間づくりになればと考えられています。

運動会に参加したり、作品展に出品したりいろいろな行事に参加しています。

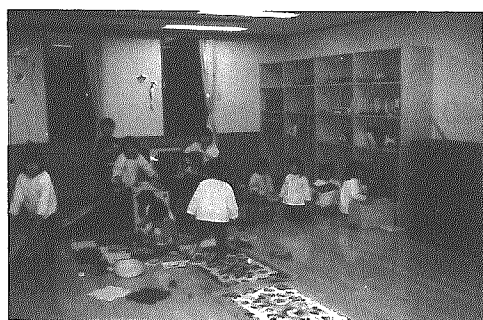


3歳未満児童保育

昔は、2年又は3年保育が主流でしたが、核家族化や女性の社会進出による共働き家庭の増加等により、村でも3歳未満児の入所希望は増加傾向にあります。

現在、0歳児2人、1歳児5人、2歳児11人が入所しています。

保護者の育児と仕事の両立支援のための環境づくりに努めています。



延長保育

核家族化の進行や就労形態の多様化に伴って、通常の保育時間では保育に欠ける児童に対し、午後6時まで延長保育を実施しています。

遊戯室でおやつを食べたり、ビデオを見たり、積木で遊んだり、走り回ったり元氣一杯です。

保護者から「働きに出られるようになった。」と親子共々喜ばれています。



放課後児童クラブ

村では、就業等により昼間保護者のいない家庭の小学校1年生から3年生までの児童を対象に4月から放課後児童クラブを実施しています。

6人の児童が入会し、小学校の放課後から午後6時まで指導員のもとで活動しています。保護者から安心して働ける」と好評のようです。

※入会等お問い合わせは、住民課保健福祉係までお願いします。



チャイルドシート購入費助成事業

村では、チャイルドシートの普及を促進し、乳幼児の交通事故防止を図るとともに、村民の子育てを支援することを目的に平成12年1月1日から助成事業を行っています。助成額は、購入価格の3分の1の額とし、1台につき1万円を限度とします。

※お問い合わせは、総務課庶務係までお願いします。